

中学校 国語科 部会

部会長名 大任中学校 校長 白石 毅
実践者名 香春中学校 教諭 村井 賢子

1 研究主題

批判的思考力を育てる第3学年国語科「書くこと」の学習指導の研究
～批評文を書く交流活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現代社会では、相手や目的、意図に応じて、自分の考えを文章で表現し、伝える機会が多い。そのため、「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く」力が求められている。しかし、どのような方法で論理の展開を工夫すればいいのか、どのような文章であれば説得力のある文章といえるのか、どこを直せばいいのかを悩む生徒は多い。そこで書いた文章を互いに読み合い、意見や助言を述べたり、評価したりして、書いた文章を交流しながらよりよい文章にしていく活動を取り入れた。PISA調査の結果からも明らかのように、「テキストの解釈（書かれた情報から推論して意味を理解する）、熟考・評価（書かれた情報を自らの知識や経験に位置付け自分の考えをもつ）、論述（自分の考えを根拠を明確にしながら分かりやすく伝える）」などは読むことのみならず、書くこととも密接に関係している。「書くこと」でもこれらを意識した授業を行うことは「読解力向上に関する指導資料」（平成17年12月文部科学省）の指導の改善の方向①の内容、「自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み（クリティカルリーディング）」の実現にもつながり重要だと考え、本主題・副主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

生徒は、これまでに社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができるようになってきている。また、自分の立場と伝えたい事実や事柄を明確にして、意見や根拠となる事実をどこに位置付けるかを考えて構成することの重要性を学習してきている。しかし書いた文章を読み合っ、意見や助言を述べたり、評価しながら自分の表現の参考にするまでには至っていない。

事前に行ったアンケート調査で、文章を書く時に大切なこととして「相手に分かりやすくするための工夫が必要」と回答した生徒は67%であった。それに対し、具体的にはどんな工夫をしているかという問いには「文章の展開や構成」と回答した生徒が38%、「根拠を挙げる」と回答した生徒は17%だった。また、「考えを話すことは好きだが、その考えを文章にすることが苦手」と回答した生徒は44%で、その理由として「工夫の仕方や書き方がわからない」などが挙げられた。これらの結果から、文章を書く時に相手に分かりやすく伝えるために工夫することが大切だと考えてはいるものの、文章の展開や構成を考える際の具体的な工夫の仕方や記述の仕方がわからないと感じている生徒が多いと捉え、その解決のために本主題・副主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 批判的思考力を育てるとは

批判的思考力を育てるとは、「書かれている内容や表現を吟味・検討したり、その妥当性や客観性、信頼性を評価したり、自分の知識や経験と結び付けて根拠を挙げながら建設的に批判し、よりよい文章にするための改善案をも併せて考えることができる生徒を育てる」ことである。本研究では「書くこと」において、自他の書いた文章について客観的、分析的に熟考・評価する姿勢をもたせ、自分の考えをわかりやすく説明したり、判断や評価の理由や根拠などを明確にしたりするなどの工夫をさせて説得力を増すことを意識させながら、生徒自身が適切に表現を評価する能力を伸ばし表現能力を育てていきたい。説得力のある文章を書くことができるということは、読む時にも働く、理由や根拠などを明確にして文章の内容・形式を判断し、評価する力を身に付けているといえるからである。

(2) 批評文を書く交流活動とは

批評文を書く交流活動とは、「関心のある事柄について、そのもののよさや特性、価値などについて論じたり、評価したりする文章」つまり批評文を書く過程において、学習したことを振り返る活動を計画的に設定し、書いた文章を互いに読み合い、意見や助言を述べたり、評価したりして、書いたものを観点に基づいて交流しながらよりよい文章にしていく活動である。具体的には、学習形態の工夫をすることにより、交流活動の活性化を図りながら批評文を書いていく。4月に実施した実力テストの結果のうち、「読むこと」の領域からの偏りをなくし、人間関係にも考慮した6つの班編成を行った。班編成を行うことで、意見を交流しやすい雰囲気を作り、批判的思考力を育てることができると考える。

授業では、基本的な論理の展開の仕方や根拠となる事実やデータ、専門家の言葉など、客観性や信頼性の高い資料を引用する文章の書き方を、関心のある事柄に対する批評文を書く活動を通して身に付けさせていきたい。

4 研究の目標

批評文を書く交流活動を通して、第3学年国語科「書くこと」における批判的思考力を育てる学習指導のあり方を究明する。

5 研究仮説

第3学年「書くこと」において次のような手だてをとれば、「書くこと」における批判的思考力を育てることができるであろう。

(1) 単元を貫く言語活動の設定の工夫

本単元では、論理の展開を工夫し説得力のある批評文を書くことができるようにする。そのために、学習の最後に書いた批評文を1年生に読んでもらい、説得力のある文章になっているかどうか評価してもらうという単元を貫く活動目的を設定する。それに向かって、付けたい力が毎時間の学習で積み上がっていくようにする。

(2) 選択した事柄の観点を交流し、客観的に検討することで適切な観点を導き出す工夫

自分なりに考えた観点を、班で交流する活動を通して、客観的に検討するようにさせ、選択した事柄を分析するための適切な観点を考える。より適切な観点を選ぶことで、自分の述べたい事柄の特徴が見えてくることに気付かせ、さらに関連した情報も集めようとする意欲へつないでいくようにする。

6 研究の計画

(1) 単元名 説得力のある考えを述べよう

(2) 単元の目標及び指導計画

単元	説得力のある考えを述べよう		総時数	8時間	時期	6月
単元の目標	<p>○社会生活の中から関心のある事柄について、取材を繰り返しながら情報を集め、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○資料を適切に引用したり自分の考えの根拠を明確にしたりして、論理の展開や表現の仕方について考え、説得力のある文章を書くことができる。 (書くこと)</p> <p>○書いた文章を互いに評価し合い、分析する観点を決めたり表現を改善したりして、自分の見方や考え方を深めることができる。 (書くこと)</p> <p>○自分の意見を効果的に表現するために、適切な言葉を選択することができる。 (言語文化と国語の特質に関する事項)</p>					
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)		
1	2	<p>批評文の構成と書き方を知ろう。</p> <p>批評文のテーマとして取り上げたい事柄を決めよう。</p>	<p>1. 2つの批評文を比較し、気づいたことを基に、完成までの学習計画を立てる。</p> <p>①『『批評』の言葉をためる』(教科書 P36)を読み、批評することの意義を捉える。</p> <p>②批評文の例(教科書 P33)と教師が書いた映画についての批評文を比較し、他に入れた方が良いと思う観点をアドバイスする。</p> <p>③批評文の例(教科書 P33)を読み、話題に対する「肯定的評価」「否定的評価」および「筆者の主張」を捉え、下段を参考に構成を確認する。</p> <p>④学習の最後に、書いた批評文を1年生に評価してもらうための学習計画を確認する。</p> <p>2. 社会生活の中から、興味・関心のある批評文のテーマとその事柄を選択する。</p> <p>①テーマと事柄を書き出す。</p> <p>②テーマと事柄を班で絞り込む。</p>	<p>・「批評」と「批判」の違いに注意して読むように指示する。</p> <p>・自分を知り、相手と理解し合うために、「批評」の言葉をためる必要があることを読み取らせる。</p> <p>・2つの批評文を比較し、構成する観点や論理の展開について気付いたことを付箋紙にメモさせる。</p> <p>・「1年生に読ませる」という単元を貫く言語活動(ゴールの活動)を設定し、書いてみようという意欲をもたせるようにする。</p> <p>・前時の宿題として、本やインターネットで1人3つ集めてくるようにさせておき、教師側も用意しておく。</p> <p>・肯定・否定の両面から評価できるもの、具体的な意見を主張できるものを班で話し合い、決定させる。</p>		

1 / 5 本 時	<p>批評文を書くために選んだ事柄を分析する観点を5つ選ぼう。</p>	<p>1. 事柄についての観点を交流し、客観的に検討したことを基に、自分の選んだ事柄を分析するための適切な観点を5つ選ぶ。</p> <p>①選んだ事柄についての自分なりの観点を考える。</p> <p>②班で交流し、紹介したい人を決め、その観点をみんなに紹介する。</p> <p>③自分の観点を修正し、適切な観点を5つ選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【テーマ例】(教科書 P33)で示している観点に着目させることで、客観的・分析的に論じたり評価したりすることをイメージさせる。 ・根拠を必ず書かせる。 ・その事柄の特徴があらわれているかという視点で読ませる。 ・良い点(ピンク)、改善点(青)を付箋紙に書かせる。 ・全体でも共有させるために、班から紹介したい人を決め、その観点を紹介させる。 ・選んだ観点と理由を書かせる。
2 4	<p>批評文に必要な資料を集めよう。</p> <p>集めた情報を整理し、批評文の構成を考えよう。</p> <p>批評文(一次)を読み合い、感想や助言を伝え合い、清書をしよう。</p>	<p>2. 文の引用の仕方を理解し、自分の批評文に必要な資料を集める。</p> <p>①文の引用の仕方や書き方を確認する。</p> <p>②引用に必要な資料を集める。</p> <p>3. 説得力のある文章を書くための構成を考え、一次作文を書く。</p> <p>①論理の展開の仕方に気を付けて、構成を考える。</p> <p>②論理の展開を工夫して批評文(一次)を書く。</p> <p>4. 書いた批評文(一次)を、班で相互評価し、修正へ向けての見通しを立てる。</p> <p>①論理の展開を工夫して批評文(一次)を書く。</p> <p>②班で批評文を読み合い、説得力のある文章かどうか、判断する観点を明確にして交流する。</p> <p>5. 批評文を清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引用することで説得力を増すことのできる資料の集め方を考えさせる。 ・学習プリントを用い、資料と出典を書き込ませ、資料のどの部分に使うか吟味させる。 ・「論理の展開を工夫して書こう」(P165)を参考にさせる。 ・構成案を書き込める学習プリントを用意し、「序論・本論・結論」「起承転結」「事実と意見」「主張と根拠」などを意識させる。 ・根拠は明確、妥当であるか、説得力のある主張や意見であるかを見るようにする。 ・意見や感想を具体的に書かせるようにする。

3	1	1年生に読んでもらい、反応から学習を振り返りよう。	1. 批評文を1年生に読んでもらい、学習の振り返りを行う。 ① 3つのグループに分かれ、批評文を読んでもらい、3つの観点から説得力のある批評文かを評価してもらう。	・【評価の観点】 ① 文の構成（頭括型、尾括型、双括型）は分かりやすかったですか。 ② 主張はわかりましたか。 ③ 納得できる具体例を示したり、客観的で信頼性の高い資料を引用したりしていましたか。
---	---	---------------------------	--	---

7 指導の実際

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、「批評」と「批判」の違いや、批評文を構成する観点や論理の展開について学んできている。また、1年生に批評文を読んでもらい、説得力のある文章になっているかどうか評価してもらうという活動目的に向かって、テーマとして取り上げたい事柄を班で選択している。

そこで本時では、選択した事柄を分析する適切な観点を5つ選ぶことができるように、客観的に検討する交流活動を取り入れる。まず、自分なりに考えた観点を理由とともに書かせる。次にその事柄の特徴があらわれているかという視点で、班の中で交流し合い、良い点（ピンク）、改善点（青）の付箋を使って助言し合う。それぞれを比較して助言しあったり、質問しあったりすることで適切な観点になっているかを、確かめ合うことができるだろう。さらに、各班がどんな観点が適切だと捉えているかを全体でも共有させるために、班から紹介したい人の観点を理由とともに発表させる。最後にそれぞれの班から出された観点を参考に、自分の観点をもう一度振り返って修正し、5つの観点を選ぶという活動を通して、批判的思考力の育成につなげたい。

(2) 本時の主眼

選択した事柄の観点を交流する活動を通して、客観的に検討し、自分の述べたい事柄の特徴があらわれる観点を5つ選ぶことができる。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	学習形態	指導上の留意点 ◇評価規準【方法】	配時
導 入	1. 本時の学習課題を学習計画表で確認する。	全体	○ 何のために学習を積み上げているのか意識するために、単元を貫く活動目的を確認させる。	5
めあて 批評文を書くために、選んだ事柄を分析する観点を5つ選ぼう。				
展 開	2. 選んだ事柄についての自分なりの観点を考える。	個	○ 選んだ事柄を分析する観点を5つ書かせるために、教科書の例を参考にさせる。	5
	3. 班で交流活動をし、批評文に適切な観点を考える。	班	○ 適切かどうか判断するために、選んだその根拠を必ず述べさせる。	15

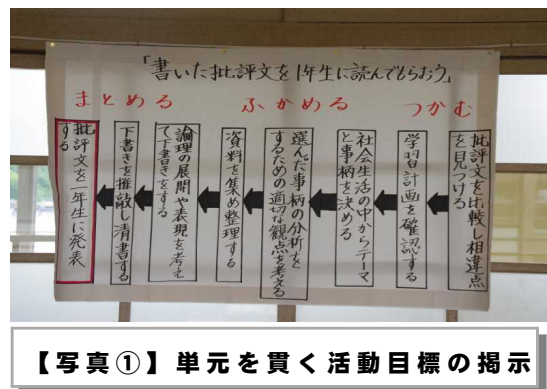
終末	(1) 交換して観点を読み合い、付箋を使って助言する。		○ 選んだ事柄に対して適切な観点であるかどうか判断するために、その事柄の特徴があらわれているかという視点で読ませ、良い点（ピンク）、改善点（青）を付箋紙に書かせる。	
	(2) 班から紹介したい人を決め、その観点をみんなに紹介する。	全体	○ どんな観点が適切と捉えているのかを全体でも共有させるために、班から紹介したい人を決め、その観点を紹介させる。	15
	(3) 自分の観点を修正する。	個	○ 適切な観点にするために、出された観点を参考にさせながら修正させる。 ◇なぜこの観点を選んだのか、その理由を書くことができるか。 【学習プリントの記述、発言内容】	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>まとめ よりよい批評文を書くためには、自分の述べたい事柄の特徴があらわれるような観点を多くもっておくとよい。</p> </div>				
	4. 本時の振り返りをし、次時の学習へとつなぐ。		○ 自分の批評文に必要な客観的な情報を集めさせるために、例を提示し、意欲付けを行う。	5

8 研究のまとめ

(1) 単元を貫く言語活動の設定の工夫について

本単元では、学習の最後に書いた批評文を1年生に読んでもらい、説得力のある文章になっているかどうか評価してもらうという単元を貫く活動目的を設定した。

また、【写真①】のように模造紙に書いて常に目に触れるところに掲示しておくことによって、生徒は次の学習についてスムーズに準備することができた。また、「よし、書いてやろっかね。」「がんばらないけんね。」という意気込みを聞くこともできた。日頃の下級生との関わりは、行事や部活動という大きな枠の中の上級生の一人として接する生徒も多いだろう。しかし、この学習活動では1年生に「3年生ってこんなことしてるんだ」「難しそうなのにすごいな」という思いを抱かせた。そんな声を聞き、伝えたときの3年生の笑顔や「難しかったけどして良かった。」という反応を見ると、自己肯定感を高め、達成感を味わわせることができた点で有効だったといえる。



【写真①】単元を貫く活動目標の掲示

(2) 選択した事柄の観点を交流し、客観的に検討することで適切な観点を導き出す工夫について

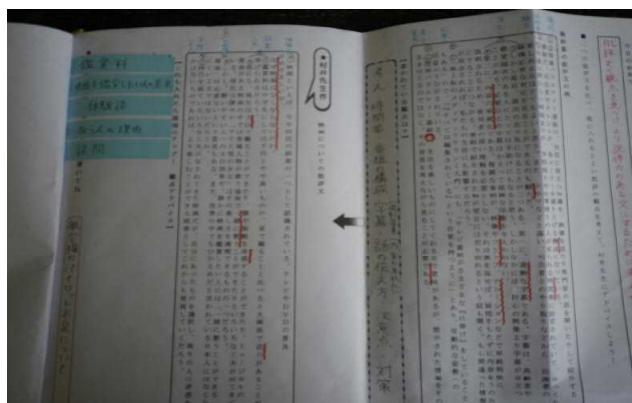
「書くこと」における批判的思考力を育てるためには、客観的、分析的に物事を見つめ

る姿勢をもたせることが必要となってくる。そのためには、段階を追って、わかりやすい個々への援助（課題に関連する言葉への線引き、例示、指示、板書等）が不可欠だろう。

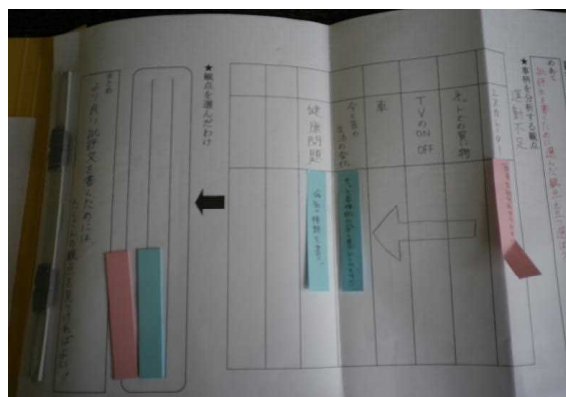
【写真②】は批評文の例と教師が書いた映画についての批評文を比較し、構成する観点や論理の展開について気付いたことを書き込んだり、付箋紙にメモしたりしているプリントである。

また、限られた授業の中で批判的思考力を育てるために、4月に実施した実力テストの結果のうち、「読むこと」の領域から偏りのない班を編成し交流活動を取り入れた。【写真③】は自分なりに考えた観点を、班で交流し選んだ事柄の特徴があらわれているかという視点で良い点（ピンク）、改善点（青）の付箋紙に書いたものである。そして【写真④】は班で観点を出し合っている場面である。

授業後の振り返りで「交流することによって、適切な観点を5つ選ぶことができましたか」という項目では「できた」と回答した生徒は80%、「文章の展開や構成を工夫して文章を書くことができましたか」という項目で「できた」と回答した生徒は68%であった。交流によって観点を5つ選ぶことができた生徒は多いが、批評文を書くまでに交流や推敲を繰り返したことから、批判的思考力を育てるためには、基本を踏まえて文章を書く練習がさらに必要であるといえる。



【写真②】構成を理解するための学習プリント



【写真③】観点について助言し合う交流



【写真④】観点を班で紹介し合う交流

感想では「同じ事柄でもそれぞれ違う観点がだされて、おもしろいと思いました。」や「自分が気付いていないことをアドバイスしてもらいました。でも説得力のある文章を書くための観点を考えるのは少し難しかったです。」というものがあつた。違う観点をだし合うことや自分が気付いていないことをアドバイスし合えたことは、自分を表現できる環境（班編成）や共通の問題を通して一人一人が考えをもち、話し合うことで、ものの見方や考え方が広がつたからではないかと考える。

9 研究の成果と課題

(1) 成果

- 単元を貫く言語活動の設定は生徒の自己肯定感を高め、達成感を感じさせる上でも有効である。
- 「書くこと」における批判的思考力を育てるためには段階を追った個々への援助（課題に関連する言葉への線引き、例示、指示、板書等）という教師側の援助と、意図的に行った班編成での交流活動が有効である。
- 交流活動では①場への信頼がある②共通の問題がある③一人一人に考えがある④考えに異質性があるという成立条件が必要である。

(2) 課題

- 段階を追って、わかりやすい個々への援助（課題に関連する言葉への線引き、例示、指示、板書等）をさらに工夫する必要がある。
- 1 単位時間の中で押さえるべきねらいを絞り込み「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」をもっと意識して行う必要がある。
- 学習プリントに記入する際の記入の仕方に違いが見られた。教師の指示を的確に伝える必要がある。

◇ 主な参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年）文部科学省
- ・ 評価規準・評価方法等の研究開発国立教育政策研究所
- ・ 「読解力」を高める国語科授業の改革－PISA型読解力を中心に－
鶴田清司 著 明治図書
- ・ 新中学校国語科重点指導事項の実践開発河野康介 編著 明治図書
- ・ 第3学年 単元構想表でつくる！中学校新国語科授業 START BOOK
富山哲也・杉本直美 編著 明治図書
- ・ 中学校国語科新授業モデル河野庸介・佐藤喜美子 編著 明治図書